令和元年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2019025

プロジェクト名　歴史的遺構を活かしたトレッキングマップ作り

プロジェクトの概要

千葉県鴨川市にある嶺岡牧地域は、関東に４つあった江戸幕府直轄の牧のひとつであり、首都圏拡大で消えた小金牧、佐倉牧、愛鷹牧の３つとは異なり、現在もその遺構が唯一のこっている。また、南房総は日本酪農発祥の地であり、地形、風土、生業の営みが結びついた地域の景観が伝統的に継承されてきた。嶺岡牧は現在手付かずの荒れ山になっているが嶺岡牧が貴重な歴史的資源であることは確かであり、嶺岡牧再興を梯子とした地域再生マネジメントが現在行われている。本プロジェクトでは嶺岡牧地域に点在する歴史的遺構を知り、イラストマップとして表現することで地域に眠る資源を再認識し、視覚的かつ俯瞰的に捉え、その歴史的価値を地域内外に伝えることを目的としている。

プロジェクトの結果・成果

本プロジェクトでは当初、トレッキングマップを作ることで、人々を山に近づけ地域の歴史的な経緯や遺構の実態、山間の美しい景色などを知ってもらう計画を立てていたが、現地の予備調査を行う中で地域内の山の状況や現在求められているものにそぐわないことが判明した、また晩夏には房総地域を台風の猛威が襲い計画の変更を余儀なくされた。かつて牧であったことを示す主な遺構は山の中にあるが、嶺岡牧地域には日本酪農発祥の地としての歴史や風土もあり、山の中に限らず歴史的な遺構がある。それらを活かしたマップを考えることが、本来の目的である地域内外に歴史的遺構としての魅力を伝えうる効果を発揮すると判断した。
常に変化する地域の状況を捉え、自分たちにできることを探すのは困難であったが、予定通りには進行できなかったが、ひとつひとつ点として存在する歴史的遺構たちをどう活かすかを考え、地域のことを考えてマップを作成することはとても有意義な時間であったと思われる。今までひとつの視点でしか見ていなかった地域の資源を他学部との協力することにより多角的に捉え活用を考えていくことを学べた良い機会であった。今回作成したマップは地域の一部の遺構しか捉えられておらず、魅力の伝え方も未熟であり心残りがある。本年度のプロジェクトは終わったが今後も継続して地域住民に地元への魅力を気づかせる機会や、嶺岡牧地域外の人が新たに知識や興味を持つきっかけとなるマップ作りを考えていきたいと思う。

活動写真